



アンコールでは、今村さんの指揮で観客も含めた1000人が「ふるさと」を大合唱。(ウオーチエ・のべおか提供)



義援金やコンサートへの支援に感謝して笑顔を見せる今村さん(右)と大藤さん

「春風にのせて」 ヴォーチエ・のべおか 満員の会場、感動の合唱

熊本地震・九州北部豪雨災害支援コンサート

東京で開催

「本当に感動的で幸せでした」と話す延岡市の合唱団ヴォーチエ・のべおか代表の今村愛子さんと事務局長の大藤麻里子さん。ウオーチエ・のべおかは今年1日、東京・千代田区の紀尾井ホールで熊本地震・九州北部豪雨災害支援コンサート「春風にのせて」を開催。2人はその模様を振り返った。会場には、延岡出身の人も多数詰めかけるなど満員となり、多くの義援金が寄せられて大成功だった。

コンサートには、主催「声合唱のための七つの丸」のヴォーチエ・のべおか約60人のほか、デザイナ1のコンジシユンコさんが団長を務める「神楽坂女声合唱団」など関東地区の5団体200人も参加した。ヴォーチエ・のべおかは、のべおか第九を歌う会の合唱監督だった故・長井則文さん編曲の「女手守歌」など静かな曲に、紺色の頭巾と風呂敷で作ったポンチヨのような衣装姿の団員たちによる踊りやパフォーマンスで盛り上がる一方、「五木の歌」など静かな曲に観客は聞き入った。アンコールでは今村さんの呼び掛けで観客も立ち上がり、会場は出演者と観客の総勢1000人による「ふるさと」の大合唱に包まれた。観客はスタンディングオベーションで凱琳んばかりの拍手を送った。会場にはヴォーチエ・のべおかのメンバー岩永みどりさんが手づくりした紙袋が配られて義援金を募り、この分だけで41万1000円が寄せられた。集まった義援金は九州合唱連盟を通して被災地の合唱連盟に届けられる予定。

東京での復興支援コンサート開催は大藤さんと日本合唱指揮者協会副理事長などを務める辻秀幸さんとのつながりがきっかけ。ウオーチエ・のべおかの団体は、県北だけでなく串間、都城、川南にもいるが、開催が決まると1年半ほど前から練習を開始。今年1月からはその準備を進めてきた。また、会場が東京ということもあり、チケット販売にも尽力。団員が東

京在住の家族や友人らにコンサートへの来場を呼び掛け、1カ月以上前に完了となったという。全員の思いが実り、会場には延岡出身者や、のべおか「第九」演奏会リストを務める増田弥生さんら縁のある人たちが大勢駆け付けて、九州の民謡を懐かしんだりコンサートの成功喜んだ。「東京の人たちが南国の輝くような明るさと魅

力に圧倒されて刺激を受けたと話していました」と大藤さん。今村さんは「みんなが憧れる最高のホールでそう思うメンバー。楽しんで幸せだった。さきやかでも頑張ればお役に立てることもあるんだ」ということがみんなの喜びになり、感謝でした」と笑顔で振り返った。